

2026年度

世界史

注 意

1. 監督者の合図があるまでは問題冊子と解答用紙を開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の決められた箇所に記入してください。
記号で答えられるものは記号で記入してください。
3. 試験開始後、解答用紙に氏名・受験番号を記入してください。
4. 試験問題はこの冊子の1～10ページに記載されています。
問題冊子の白紙部分は、メモとして使用して構いません。
5. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

I 中世のイベリア半島の歴史に関する次の文章を読んで、文中の空欄 ～
 にあてはまる最も適切な語句を記入し、下線部(1)～(7)に対応する問1～7に答えなさい。

1212年7月、一般に広く知られてはいないが、当時のイベリア半島の政治的すう勢を左右した一大決戦が、半島南部のラス=ナバス=デ=トロ=サにおいて戦われた。キリスト教諸国の連合軍とイスラーム教徒のカリフ軍が相見えるこの会戦の構図⁽¹⁾は、一見そのまま、13世紀の地中海沿岸地域を覆っていた対立の構図に符合するようにも思われる。

キリスト教諸国側からは、カスティリヤ王アルフォンソ8世、アラゴン王ペラ1世、ナバーラ王サンチョ7世といった各国の君主が、直々にトレドに集結した。加えて、ピレネー山脈の北に位置するボワティエやガスコーニュからも多くの兵士が参集していた。他方、迎える 朝カリフ軍には、 朝が元来 人によって建てられた王朝であったので、 系部族兵を始めとして、トルコ系騎乗弓兵、黒人奴隷軍団など多様な戦力が参戦していた。

このラス=ナバス会戦の結果は、当初はキリスト教徒連合軍が劣勢であったが、最終的には 朝軍が総崩れとなり、キリスト教諸国の大勝利となった。

しかし、この一大決戦の勝利をもって、キリスト教諸国の念願である (国土回復運動)に大きな弾みがついたかと言え、歴史的展開は必ずしもそうではなかった。主要都市の攻略状況だけを見ても、コルドバがキリスト教勢力の手に帰するのは1236年のことであり、セビリヤのそれは1248年を待たねばならない。 の陥落に至っては、それが達成されるのは、15世紀末、1492年のことである。

イベリア半島の が、13世紀初め以降、すみやかに進展しなかった背景には、当時のイベリア半島の社会が、一般に考えられているような宗教的・信仰的に二分された、対立的で、不寛容一辺倒な社会ではなかったことが関係していたと説かれている。イベリア半島に生きたキリスト教徒も、イスラーム教徒も、信仰を異にする「隣人」を、単なる不倶戴天の敵とは見なししていなかったということである。

同じキリスト教諸国であっても必ずしも常に手を取り合って事に臨む関係にあったわけではなく、いがみ合っていたことも多く、逆に、イスラーム勢力と手を結ぶこともしばしばであった。キリスト教徒の傭兵団がムスリムの君主に仕えることも、A 朝カリフの一族が生き残りのために、キリスト教への改宗を選択することも、中世期のイベリア半島においてはごく日常的に垣間見られた歴史的現実なのであった。

問1 (a) 下線部(1)が言う「対立の構図」が原因となって、ヨーロッパのキリスト教諸国側が、数度にわたって相手側に対して派遣したのは何か、答えなさい。

(b) 13世紀初めは教皇庁の権威が最高潮に達していた時期とされるが、「教皇は太陽であり、皇帝は月である」の言葉を残したとされる教皇は誰か。

問2 (a) 1143年に、カスティリヤ王国から分立した半島西部の王国はどこか。

(b) カスティリヤの王女として、アラゴン王子フェルナンドと結婚し、1479年のスペイン王国成立の基礎を築き、王国の共同統治者となったのは誰か。

(c) (b)の女王に、西回りでアジアに到達するための航海への後援を求め、援助を得て、1492年8月にパロス港から出帆したのは誰か。

問3 (a) トレドでは、アラビア語文献のラテン語への翻訳が盛んに行われた。後のスコラ学に大きな影響を与えた、アリストテレスの著作への注釈で知られるイスラーム哲学者の著作もその一つであった。この人物は誰か。

(b) 代表作「オルガス伯の埋葬」などで知られ、トレドで活躍した、クレタ島出身の画家は誰か。

問 4 (a) 732年のトゥール・ポワティエ間の戦いにおいて、フランク軍を率いて、ピレネー山脈を越えてフランク王国内に侵攻してきたイスラーム勢力を撃退したのは誰か。

(b) 百年戦争中の1356年、ポワティエの戦いにおいて、イギリス軍がフランス軍を打ち破っているが、この時イギリス軍を率いていた黒太子の異名を持つ人物は誰か。

問 5 (a) 756年に、コルドバを都として成立したイスラーム王朝は何か。

(b) 10世紀に、(a)の王朝の最盛期を現出させたとされるのは誰か。

(c) (b)の君主は929年にカリフを称したが、それはアッバース朝に加えて、マグリブで興った王朝でもカリフを称する動きがあったためであった。このマグリブの王朝とは何か。

問 6 (a) 大航海時代以降、セビリャはアメリカ大陸との貿易の拠点として繁栄したが、同じくスペインの世界貿易の中心地として栄えた南ネーデルラントの都市はどこか。

(b) セビリャ大聖堂は世界有数の規模を誇り、その鐘楼は「ヒラルダの塔」として知られているが、それは元来モスクの構造物としては何であったか、最も適切なものを(あ)～(え)から一つ選び、記号で答えなさい。

(あ) キャラヴァンサライ (い) ミフラーブ

(う) ミナレット (え) マドラサ

- 問7 (a) キリスト教徒やイスラーム教徒と、イベリア半島の諸都市において共存し、社会的・経済的に活躍していたものの、1492年の追放令によってスペインに留まることが許されなくなったのは何教徒か。
- (b) イベリア半島と同じく、キリスト教徒とイスラーム教徒が共存し、多様な民族や文化の交流がはかられていた場所としてシチリア島がある。シチリア島を拠点として建国された両シチリア王国は、何人によって建てられたか。

II ゴンクール賞(フランスの文学賞)について述べた次の文章を読んで、文中の空欄

A ～ H にあてはまる最も適切な語句を記入し、下線(1)・(2)に対応する問1・2に答えなさい。なお、同名の君主がいる場合には区別のつく形で答え、人名で「何世」とつく場合はかならずつけること。(例「ジョージ7世」)

エドモン＝ド＝ゴンクールは、弟のジュールとともに、19世紀後半に日本文化が
(1)
ヨーロッパに広まった際の立役者となった人物である。なかでも浮世絵は、
 A 派の絵画に影響を与えた。たとえば、「睡蓮」で知られる B の
「ラ＝ジャポネーズ」や、「ひまわり」で知られる C の「タンギー爺さん」など
である。

エドモンの死後、その遺産をもとに創設されたのがゴンクール賞という文学賞である。これはフランスの文学賞のなかでも代表的なもののひとつとなった。

受賞作は毎年、アカデミー＝ゴンクールの会員によって選考されてきた。たとえば1933年には、 D の『人間の条件』が選ばれた。中国を舞台としたこの作品では、中国統一をめざす国民革命軍がおこなった戦いである E や、そのなかで1927年に F が起こした上海クーデターが描かれる。第二次世界大戦が勃発すると、 D はレジスタンスに参加し、戦後は、「フランスの栄光」を掲げて独自外交を展開した G の政権で文化相をつとめることになる。そのほか、『第二の性』の作者であり、サルトルとともに H 主義の哲学者として知られるボーヴォワールも、自伝小説『レ＝マンダラン』で受賞している。

2021年以降は、日本でも、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」という文学賞が創設されている。2025年に受賞作として選ばれたのは、ガエル＝ファイユの『ジャカランダ』であった。

ファイユはフランスとアフリカにルーツを持つラッパーである。母はルワンダ人
(2)
であったが、ブルンジで生まれた。どちらの国でも内戦が起こったことから、ファイユは父の母国であるフランスに渡ることとなったが、『ジャカランダ』には、そうした内戦の記憶が描かれている。

問1 (a) この日本趣味・日本熱のことを何というか。

(b) この日本趣味・日本熱には、パリ万国博覧会も大きく関わっている。この状況について述べた以下の文の空欄 ～ にあてはまる最も適切な人名を記入しなさい。

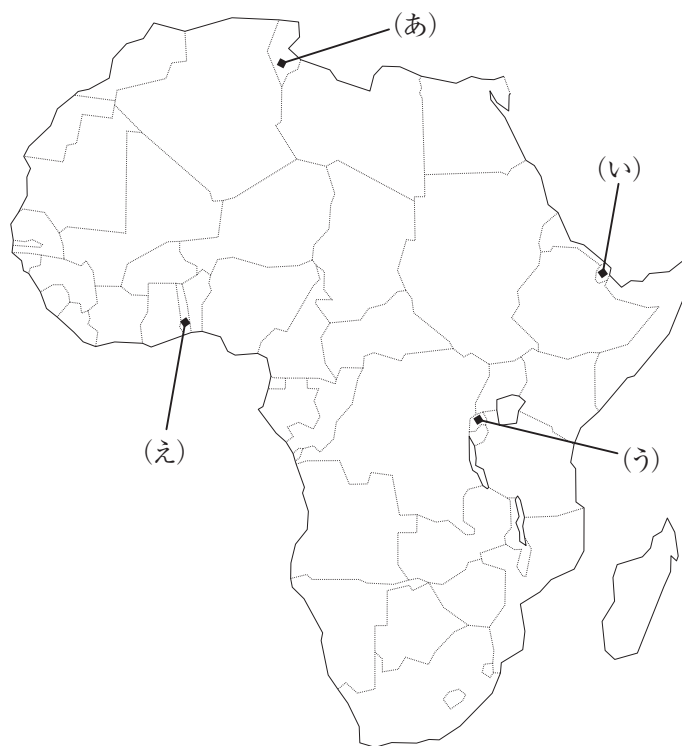
1867年に日本が初めてパリ万国博覧会に参加したときには、徳川昭武(その年に大政奉還を行うことになる将軍 の弟)とともに、「日本資本主義の父」と呼ばれる実業家の も渡仏し、皇帝 と謁見している。

問2 (a) 19世紀以降のルワンダ周辺地域をめぐる状況について述べた以下の文の空欄 ～ にあてはまる最も適切な語句または数字を記入しなさい。

この地域に派遣されたイギリスの宣教師で探検家の は、1866年にナイル川水源の探索に出かけて消息を絶った。その捜索に出発したアメリカ人新聞記者で探検家の は、1871年に無事 と遭遇することができた。その後 は 国王レオポルド2世の支援で探検を続け、アフリカの植民地化を促進させた。レオポルド2世の私有領となった 自由国での残虐な統治は国際的に問題となった。

隣に位置するルワンダではその後1962年に独立するまで、 などの植民地支配のなかで、民族間の対立の構図が固定化された。そしてついに 年代前半、ツチ族と 族の対立から内戦が発生した。内戦後は経済成長に成功し、「アフリカの 」と呼ばれている。

- (b) 現在のルワンダ共和国の位置を，地図上の(あ)～(え)から一つ選び，記号で答えなさい。



Ⅲ 現代イスラエルの成立とパレスチナ問題に関する次の文章(1)～(5)を読んで、文章(1)・(2)では空欄 A ・ B にあてはまる最も適切な語句を各文章の下にある選択肢(あ)～(え)から一つ選び、記号で解答欄に記入しなさい。また、文章(3)～(5)では空欄 C ～ E にあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

(1) 1922年7月、国際連盟理事会は、第一次世界大戦中にこの地域を占領したイギリスによる、パレスチナの委任統治を承認した。理事会決議はユダヤ人の「民族的郷土」確立を支持し、委任統治はそれを確立する責任を負うとし、 A の趣旨を追認した。

- (あ) セーヴル条約
- (い) サイクス・ピコ協定
- (う) バルフォア宣言
- (え) フセイン・マクマホン協定(書簡)

(2) 1947年11月、国際連合総会が、相対的に人口の B 側により広い土地を割り当てるパレスチナ分割決議案を可決した。翌年5月にイスラエルが独立を宣言すると、周辺アラブ諸国はすぐさま宣戦。第一次中東戦争が勃発し、70万～80万人とされるアラブ系住民が難民化した。後にパレスチナ解放機構やパレスチナ暫定自治政府は、この決議を独立国家樹立の根拠とする。

- (あ) 多いアラブ人
- (い) 多いユダヤ人
- (う) 少ないアラブ人
- (え) 少ないユダヤ人

- (3) 1973年までのイスラエルとのすべての戦争でアラブ側の主力として大きな犠牲を払ったエジプトは、1978年、アメリカの仲介により電撃的にイスラエルとの和平に合意し、イスラエルは占領していたシナイ半島をエジプトに返還した。合意に署名したエジプトの 大統領は、1981年、過激なイスラーム主義者に暗殺された。
- (4) 1993年、国家としてのイスラエルと自治政府としてのパレスチナ解放機構が互いを承認するとの合意が、ノルウェーの仲介で交わされた。パレスチナ側による暫定的自治のため、イスラエルは占領地から5年間撤退することを受け入れた。しかし合意に調印したイスラエルの 首相は、1995年、ユダヤ人原理主義者に暗殺された。イスラエルの政権交代と第二次インティファダ(アルアクサー＝インティファダ)により和平プロセスは頓挫した。
- (5) 2006年、イスラーム国家樹立を目ざす急進派組織 はパレスチナ立法評議会選挙に勝利したが、前年にガザから撤退したイスラエルとの共存を拒否し、和平プロセスをも否定する姿勢により欧米と一部中東諸国による経済封鎖を招いた。翌年、 は対話路線をとるファタハ(パレスチナ自治政府主流派)の治安機関を襲撃・制圧し、ガザ地区を完全な支配下に置いた。2023年10月、 はイスラエルを急襲し市民多数を虐殺・誘拐した。イスラエルの反撃はガザ地区をほぼ破壊し、市民におびただしい死傷者を出した。

Ⅳ 大英博物館の所蔵品について述べた次の文章を読んで、文中の空欄 ～
 にあてはまる最も適切な語句を記入しなさい。

ロンドンにある大英博物館は、世界中から収集された多くの所蔵品を保有していることで知られる。その中でもとりわけ有名なのが、エルギン=マーブルと であろう。エルギン=マーブルは、19世紀にイギリスの外交官であった第7代エルギン伯爵が、古代ギリシアのアテネにあった 神殿(ペルシア戦争で破壊されたが、ペリクレスが の資金を流用して再建したことで知られる)の遺跡から切り取って持ち帰った彫刻群である。 は要塞の建築資材として使われていたが、1799年にナポレオンのエジプト遠征隊により発見された。1801年にイギリス軍がエジプトに上陸し、フランス軍を降伏させたことで はイギリスの手にわたった。 には、アレクサンドロスの部下が建てた 朝時代に出された勅令が、古代エジプト語の (神殿や墓などに利用された文字)と民衆文字、ギリシア文字で刻まれていた。同一の文章が3種類の文字で刻まれていることから、 は古代エジプト語解読の手がかりとなり、古代エジプト文明の理解に大きく貢献した。最近ではそれぞれの国の政府がエルギン=マーブルや の返還を求めており、こうした古代の文物の所有権をめぐる論争は未だ決着していない。